

各位

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

京都市立上高野小学校

4月17日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、分析しました。この調査では、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（児童質問紙調査）も実施しています。生活習慣と学力との関係などもふまえ、一部ではありますが、ご報告いたします。

総合結果（国語科・算数科・理科）

国語科、算数科についてはそれぞれにABのテストがあり、Aは主として知識、Bは主として活用の力をみる問題になっています。本校は、国語AB、算数AB、さらに今年度実施された理科を含めた3教科で全国・京都府の平均を上回る結果でした。

3教科ともバランスよく知識が身につけていると思われませんが、児童質問紙の「調査問題の解答時間は十分でしたか」の質問に約3割の児童が「やや足りなかった」「全く足りなかった」と答えていることや、無回答率が10%を超える問題が幾つかあることから、回答時間がなかったり、自信がもてない問題については回答しなかったりしたことが考えられます。

国語科より

全体的に概ね理解はできています。国語Aでは、「話す・聞く」「書く」についての正答率が高く、筋道を立てて話したり、文章全体の構成を考えたりする力が身につけているといえます。しかし、主語と述語の関係の問題については正答率が少し下がっていたことから、文を正しく書くことには課題が見られます。

国語Bでは、「話す・聞く」が京都府の平均よりやや低く、国語Aと比べると相反する結果となっています。知識としては理解できていますが、その知識を活用することになるとまだまだ課題が見られるといえます。また、自分の意見と比べる問題や自分の考えを明確にしながら読む問題については無回答率が10%を超えており、自分の意見や考えに自信をもちにくい傾向が見られます。授業でも話し合う場面を多く設定し、自分の意見や考えに自信をもつことができるように力をつけていきたいと思います。

算数科より

全体的に概ね理解できています。算数Aでは、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域について全国・京都府の平均に比べやや上回っています。「量と測定」の領域については京都府の平均とほぼ同じくらいの正答率となっています。しかし、小数の問題と単位量当たりの大きさを求める問題については、苦手意識があるように感じられ、課題が見られました。折れ線グラフの読み取りの問題は全国・京都府の平均を上回っていますが、無回答がみられ、得意・不得意が分かれる結果となっています。

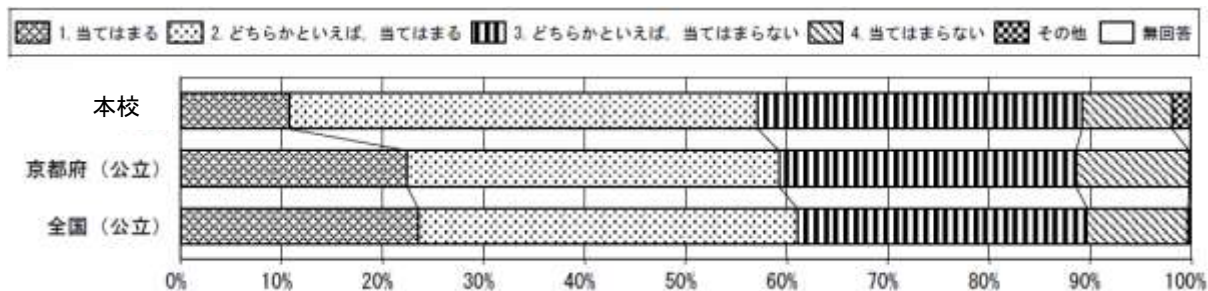
算数Bでは、全体としてはどの領域も全国・京都府の平均を上回る結果となっています。しかし、グラフの問題では全国・京都府の平均正答率も低い結果であるとはいえ、本校の結果でも課題が見られました。また、無回答率が全国・京都府の割合と比べて高くなっている問題が多いことから、算数の活用能力については差が見られるといえます。算数と日常生活を結び付けて考えていくことが今後の課題であると思われます。

理科より

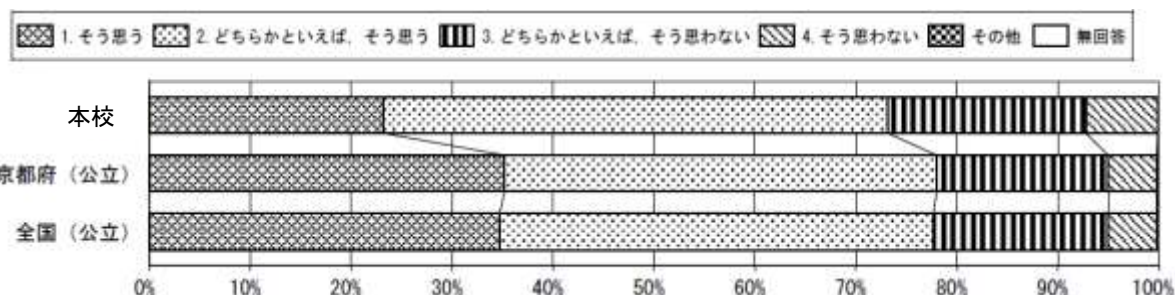
全体的に概ね理解はできていますが、知識の問題と活用の問題とを比較すると、全体的に知識の問題については正答率が高く、活用の問題については正答率が低い傾向があります。特に、生命に関する問題や観察や実験の技能について正答率が高く、全国・京都府の平均より上回っています。実際に観察したり実験したりした結果は知識として自然と身につけているものと思われます。しかし、食塩水に関する問題については正答率が低い結果となっています。無回答率も高く、最後の問題でもあることから、回答時間がなくなってしまった可能性も考えられますが、この部分については再度復習をする必要があると考えています。

児童質問紙調査より

Q：5年生までに受けた授業で、自分の考えを發表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して發表していたと思いますか。

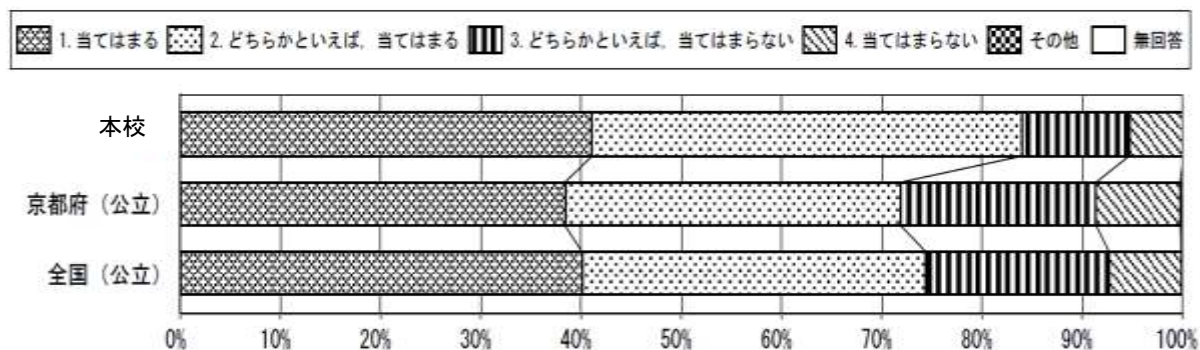


Q：学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



国語科の結果からもわかるように、自分の考えをうまく伝えたり、自分の考えを深めたり広げたりすることに関しては、全国・京都府の平均と比べやや下回っています。自分の考えを主張することにやや消極的な面も見られます。授業等で話し合う活動を取り入れ、自信をもって自分の考えを伝えることができるようにしていきたいと思います。

Q：5年生までに受けた授業や課題活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。



この質問の結果からもわかるように、本校児童は授業等での地域の方との関わりが多く、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童が全国・京都府の平均と比べても約10%上回っていることがわかります。地域行事に参加する児童も多く、地域の方にも見守っていただきながら、学校生活を送っていることが伺えます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てではなく、順位を競うものでもありません。今回の全国調査やジョイントプログラムの結果を見ると、子どもたちの学力は着実に伸びてきています。ご家庭での関わりやご支援のおかげだと思います。学力は個人の努力だけではなく、学校・家庭・地域で育てていくものだと考えています。今後ともご協力の程、よろしくお願いします。